

## 2市4町合併でどうなる？

# 大幅値上げになる水道料と国民健康保険税

2002.9.3

太良町が武雄市などと合併したら水道料や国民健康保険税など町民の負担はどうか試算してみました。

## 太良町の倍以上も高い武雄市の水道料金

まず、各市町の現行の水道料金はどうなっているのでしょうか。

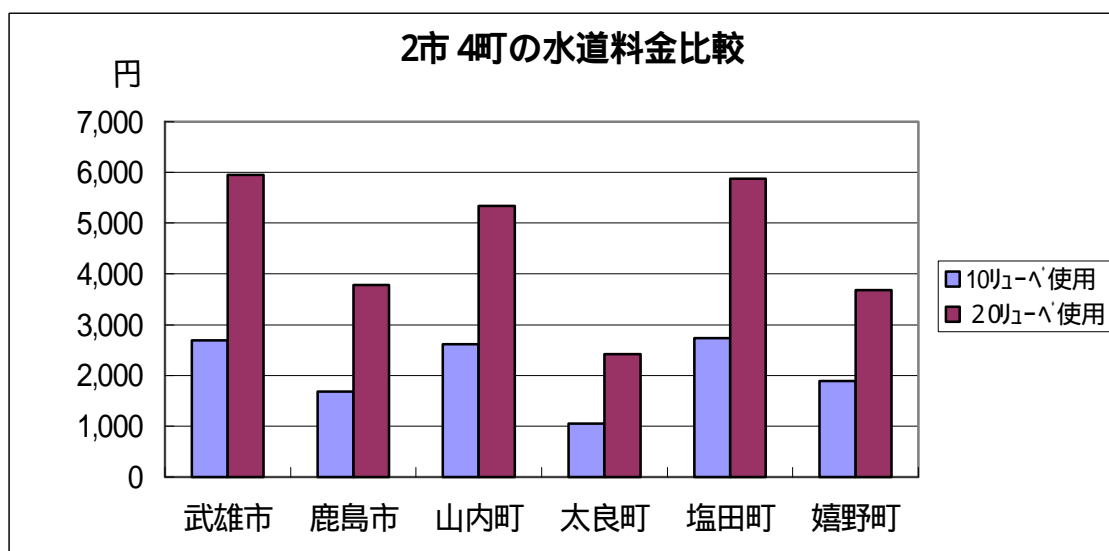
10リユ-へ、20リユ-へを使用した場合の家庭の水道料金は次のとおりです。

1ヶ月当りの水道料金 単位は円

自治体名	10リユ-へ 使用	20リユ-へ 使用
武雄市	2,693	5,953
鹿島市	1,680	3,780
山内町	2,615	5,345
太良町	1,050	2,415
塩田町	2,730	5,880
嬉野町	1,890	3,675

- ・鹿島市と太良町は2ヶ月単位の検針・料金徴収なので2カ月に20リユ-へ、40リユ-へ使用した場合の料金を算出し、その半分を1ヶ月分とした。
- ・いずれも、消費税5%を含む。
- ・嬉野町はメーター使用料50円をふくむ。

グラフにすると、次のようになります。



これを見ると、太良町と他市町の水道料金に大きな差があることがわかります。

20リユ-へ使用の場合で見ると、大まかにいって「鹿島は太良の5割高、武雄は鹿島の5割高」といってもいいでしょう。

## 合併すると、太良町民には大幅値上げ

合併するとどうなるでしょうか。

水源が別だからといって旧太良町と旧武雄市を別の料金体系にするというわけにはいきません。単一の水道会計に統合され、同じ料金体系になります。

2000年度の2市4町の水道会計決算から水道水の原価に係る数字を抜き出したのがつぎの表です。

2市4町の給水原価（2000年度各市町の水道会計決算より）

	年間有収水量	経常費用	受託工事費	経常費用- 受託工事費	給水原価
	A	B	C	D=B-C	E=D/A
単位	1000リユ-ハ	1000円	1000円	1000円	円
武雄市	2,848.31	896,987	2,066	894,921	314.19
鹿島市	2,726.69	528,629	1,166	527,463	193.44
山内町	658.18	148,627	0	148,627	225.82
太良町	369.53	50,760	0	50,760	137.36
塩田町	704.64	216,696	5,701	210,995	299.44
嬉野町	2,346.20	373,731	0	373,731	159.29
合 計	9,653.55	2,215,430	8,933	2,206,497	228.57

「年間有収水量」とは、家庭や事業所などが実際につかって、料金を払っている量です。取水費、設備関係、借金の利払い、事務費などの経常費用（これから受託工事費を差引く）を有収水量で割ったものが、1リユ-ハ当りの給水原価です。これを元にして実際の水道料金が決められます。太良町のように給水原価が低ければ水道料金は安くなり、武雄市のように給水原価が高ければ当然、水道料金は高くなります。

そこで、2000年度の各市町の決算から有収水量や経常費用などの合計を出し、1リユ-ハ当りの平均の給水原価を計算すると228円57銭になります。これは、2000年度でみると、山内町の給水原価225円82銭を少し上回る数字です。そうすると合併後は、現在の山内町くらの水道料金になるのかなと想像がつかます。

もちろん、これはきわめて単純化した試算です。

合併すれば、事務の統合などで事務費はかなり節約になると思います。また、各市町が現在、一般会計から水道会計に繰り入れているお金がどうなるかという問題もあります。

資料の関係で、2000年度の決算資料を使いましたが、実は、武雄市と塩田町は2001年度から「佐賀西部広域水道企業団」から受水をはじめています。

武雄市の場合、年間あらたに約2億5850万円の受水費をはらうことになったため、経費が大幅にふくれあがり、2001年度は約1億1400万円の赤字を出しています。塩田町の場合受水費は年間約1億9200万円程度ようです。武雄市とあわると年間約4億5000万円受水費の負担が増えることになります。

2市4町の2001年度の水道会計決算書を全部入手して計算しなければわかりませんが、年間の有収水量を2000年度と同じだとすると4億5000万円の負担増は給水原価を1リユ-ハあ

たり約 46 円押し上げることになります。 鹿島市内に建設中の中木庭ダムから取水するようになれば、さらに給水原価を押し上げることになります。

こうして見ると、2 市 4 町の合併が太良町民に水道料金の大幅値上げをもたらすことは確実です。合併の障害物をなくすため、最初の数年間は給水原価より低くおさえる対策が取られるかもしれませんが、水道会計の赤字を増やすばかりで長続きしないことは明白です。

## 国民健康保険税も合併すると大幅な負担増に

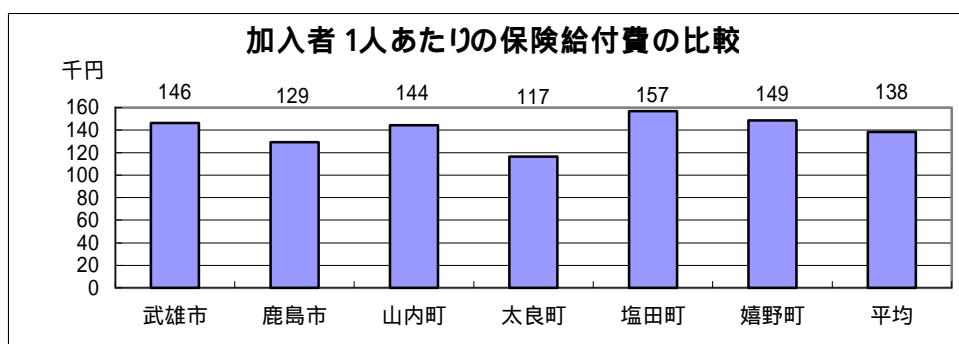
国民健康保険税についても、同じようなやり方で試算してみました。

国民健康保険会計の主な支出項目は、保険給付費、老人保健など他会計への拠出金・分担金、事務費、加入者のための保健事業費、基金への繰入れなどです。主な収入源は保険税、国庫支出金、療養給付費交付金、他会計からの繰入金、基金からの繰入れなどです。

国民健康保険の場合も、市町によって税率、高齢者の割合、保健事業につかっている金額、一般会計からの繰入額、基金からの繰入額など違いがあります。また、自治体ごとの保険給付費の違いもあります。たとえば、保険給付費を比較すると次の表のとおりとなります。

市町ごとの保険給付費の比較（2000 年度国保会計決算より）

自治体名	保険給付費	加入人員	加入者 1 人当り
	1000円	人	1000円
武雄市	1,734,909	11,872	146
鹿島市	1,812,525	14,014	129
山内町	482,332	3,340	144
太良町	818,268	7,018	117
塩田町	636,813	4,062	157
嬉野町	1,238,222	8,326	149
平均	6,723,069	48,632	138



保険給付費は、加入者が実際に使った医療費の一部が全国的な保険給付基準にもとづいて給付されますから、自治体ごとの 1 人あたりの保険給付費は、1 人あたりの医療費にほぼ比例しているとみていいと思います。（本人と家族で給付割合が違う）

加入者 1 人当り保険給付費をみると、太良町が 117 千円で一番低くなっています。これには、いろいろな要因があると思いますが、太良町が熱心に行っている保健事業・健康づくり

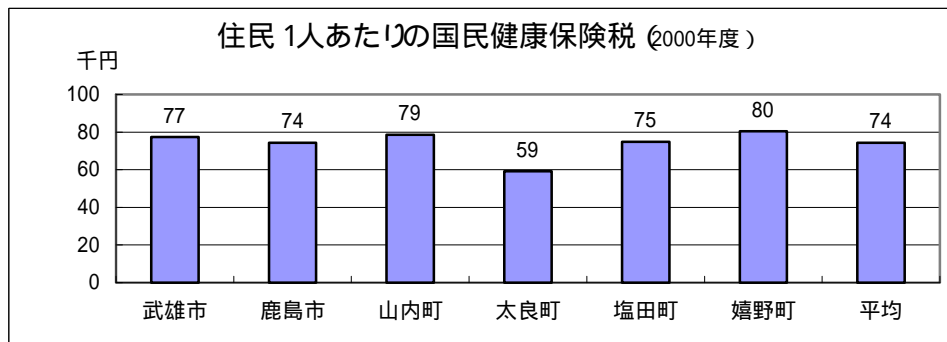
が大きな要因の一つになっていることは間違いありません。

その結果、太良町の保険税は2市4町のなかで一番安くなっています。

## 2市4町で一番安い太良町の保険税

住民1人あたりの国民健康保険税（2000年度決算より）

自治体名	保険税徴収額	加入世帯	加入人員	1人あたり保険税
	1000円	人	人	1000円
武雄市	918,816	5,653	11,872	77
鹿島市	1,040,938	5,840	14,014	74
山内町	262,202	1,501	3,340	79
太良町	416,169	2,385	7,018	59
塩田町	304,317	1,819	4,062	75
嬉野町	669,946	3,677	8,326	80
合計	3,612,388	20,875	48,632	74



「保険税徴収額」というのは、2000年度中に実際に集めた国民健康保険税の総額のことです。これを、加入者数で割ったのが「1人あたり保険税」です。

2000年度の場合、太良町は1人あたり約59,000円、これに対して他市町は7万円以上です。

2市4町が合併すると、合併後の自治体の保険税はどのようになるでしょうか。国の医療費負担制度は現行のまま、他の事情がすべて同じと仮定して、保険税の合計額を加入人員の合計数で割ると1人あたり74,000円になります。2000年度の太良町の1人あたり保険税59,000円よりも15,000円も高くなります。

合併によって、事務費が一定節約されるということはあるでしょうが保険税を大幅に安くする程ではありません。

**合併は太良町民の健康づくりに二つの大きなマイナスをもたらすこととなります。**

一つは、今、見てきたような保険税の大幅値上げです。

もう一つは、太良町が独自に進めている健康づくり・保健事業が合併によって続けられなくなるということです。

町独自の健康づくり・保健事業を維持し、保険税を安く押さえて町民の負担を軽くするためにも、合併でなく自立した町づくりを進めるべきではないでしょうか。

以上